容器包装 102-12,102-15,103-1,103-2,103-3

花王のアプローチ

花王のアプローチ

容器包装は、運搬時における中身の保護や品質の保持、使用時のさまざまな情報提供、さらには使い勝手の向上など、製品の一部としての重要な役割・機能を担っています。花王は、これら機能を高いレベルで満足しつつ、環境に配慮した容器包装の取り組みを推進しています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

日本の家庭のごみの約56.6%が容器包装廃棄物であるという調査結果(環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要(平成29年度)」)からわかるように、生活者にとってのごみ問題と容器包装は非常に大きく関連しています。廃棄物処理システムが十分に整備されていない地域では、使用済み容器包装、特にプラスチック容器包装が適正に処理できていないことにより引き起こされるさまざまな課題が大きな社会的課題となっています。

また、不適正な処理により年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋へ流出し、2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが環境に流出されるといわれています。

地球温暖化による気温上昇を2℃未満に抑制するためには、化石燃料使用量は現状より大幅に削減する必要があり、それに伴い、化石燃料からつくられるプラスチック生産量が現状より激減する可能性があります。したがって、現在のプラスチック容器包装は持続可能ではないと認識しています。

花王が提供する価値

売上高原単位当たりのプラスチック容器包装使用量は削減してきましたが、製品の売上増に伴い、総使用量は増加しています。この事実を謙虚に受け止め、これまで以上に、プラスチック使用量の削減に取り組んでいきます。

そのためには、新たな技術開発のために投資を行なう必要があります。また、さまざまなステークホルダーと連携しながら、生活者の皆さまが、容器包装を無理なくリサイクルできるしくみをつくる必要があります。

私たちは、強い意志と技術力をもって、自然環境を損なうことなく、こころ豊かな生活に貢献できるような容器包装を開発していきます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

項目	内容
政策・法規制	プラスチック容器包装使用量に関する規制強化(リサイクルプラスチック使用量義務化、課税)、プラスチック使用量情報開示の義務化など
技術	プラスチック使用量削減技術開発やリサイクルプラスチック利用技術開発失敗など
市場	消費者選好の変化、バージンプラスチック・リサイクルプラスチックのコスト上昇など
評判	業界・個別企業への非難、ステークホルダーからの懸念上昇、消費者選好の変化など

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

項目	内容
資源効率性	プラスチック使用量削減による容器コスト削減、輸送効率の改善、リサイクルコスト削減など
製品・サービス	省プラスチック容器包装製品の拡大、イノベーティブな容器包装開発による売上増と開発技術のライセンスアウトによる収入増など
市場	新規市場へのアクセス性向上による売上増、イノベーティブ技術開発時における公的インセンティブの活用など
レジリエンス	プラスチック容器包装に対する積極的な3R活動を継続的に行なうことによるレジリエンス向上

貢献するSDGs

容器包装 102-20,103-1,103-2,103-3

花王のアプローチ

方針

2018年10月に「私たちのプラスチック包装容器宣言」を公表しました。
今後はこの宣言のもと、活動を推進していきます。

私たちのプラスチック包装容器宣言（抜粋）

私たちは、自然環境を損なうことなく、人々のこころ豊かな暮らしを実現する、革新的な提案をしていきます。

私たちのめざす姿

私たちは、使用するプラスチックの量を、地球が受容できる範囲にとどめるべきであると考えます。

私たちは、プラスチックは、自然界に排出されるべきではないと考えます。また、すべてのプラスチックは、小さなかけらまで、再利用、またはリサイクルされるべきであると考えます。

私たちは、すでに自然界に排出されてしまったプラスチックについても、回収され、再生されるべきであると考えます。

花王の取り組み

日々改良を続け、画期的なイノベーションを起こすような取り組みを、4Rの視点から 推進しています。

Reduce（減らす）

包装容器を薄くしたり、軽量化したりするとともに、製品を濃縮化して容器そのものをコンパクト化することにより、プラスチック使用量を削減します。

Replace（置き換える）

石油由来のプラスチックから、より低炭素で再生可能な植物由来など、持続可能な原料への転換を図っていきます。

Reuse（再利用する）

生活者のみなさんが本体容器を繰り返し使用できるよう、つめかえ・つけかえ用製品などの新しいタイプの包装容器を開発していきます。

Recycle（リサイクルする）

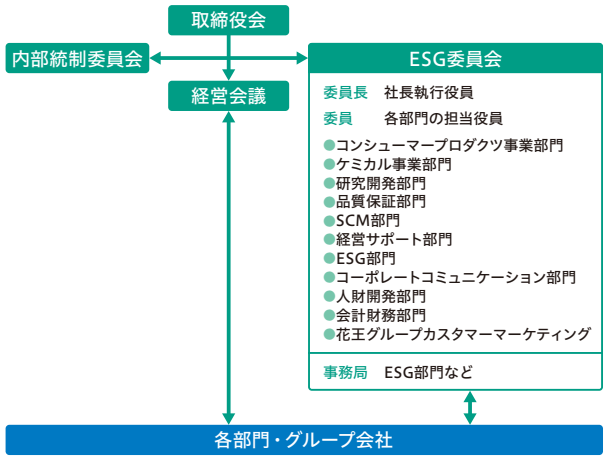
プラスチック包装容器に再生樹脂を積極的に導入するとともに、暮らしの中でリサイクルしやすい包装容器の開発に取り組んでいきます。

➡私たちのプラスチック包装容器宣言
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/eco-friendly-products/plastic-packaging/

体制

プラスチック包装容器に関する機会管理はESG委員会で実施しています。同委員会の委員は事業、販売、R&D、SCMなどの責任者が務め、事業との一体運営を行なっています。同委員会は年4回以上開催し、プラスチック容器包装をはじめとする環境、社会、ガバナンスについて討議しています。同委員会はその活動状況を年1回以上取締役会に報告し、取締役会の監督を受けています。

容器包装管理体制



※2018年12月現在

容器包装 404-2

花王のアプローチ

教育と浸透

社内の理解と活動の推進のために、包装容器開発研究所では、新製品・改良品発売時には事業ユニット、SCM部門、生活者コミュニケーションセンター等の関連部門を集めて容器検討会を開催し、環境適応性を検討しています。2018年は、容器検討会を日本で68回、アジアで7回開催しました。

容器検討会

ステークホルダーとの協働

お客さまと“いっしょにeco”

プラスチック使用量を大幅に削減できるつめかえ・つけかえ製品をお客さまにより多く選択していただくよう、花王の容器包装の取り組み紹介をエコプロ展や花王エコラボミュージアム等で行なっています。

ビジネスパートナーと“いっしょにeco”

容器包装の開発や上市を行なう際には、材料メーカー、リサイクル樹脂メーカーや容器包装メーカーとの協働が欠かせないものであると認識し、広く共同開発を行なっています。

社会と“いっしょにeco”

政府や自治体が進める活動に積極的に参加し、花王の技術紹介や、意見交換を実施しています。家庭から出る容器包装の削減を消費者に呼びかける「九都県市容器＆包装ダイエット宣言2018キャンペーン」には、開始以来9年連続で参加しています。

使用済プラスチック容器包装のリサイクルフローをより強固なものにするため、リサイクル樹脂の利用促進や新たなリサイクルのしくみづくりに取り組んでいます。

自然界に排出されてしまった容器包装などを回収する活動を外部団体とともに推進しています。また、花王独自に、海ごみや河川ごみ、市中ごみなどの回収活動を行なっています。2018年の参加者数はのべ7,765人でした。

エコプロ展

河川ごみの回収（水軒川清掃）

事業場周辺のごみの回収

容器包装 103-1,103-2,103-3

花王のアプローチ

中長期目標と実績

中期目標

2030年中期目標

・革新的なフィルム容器包装の年間普及量を3億本とする

2025年中期目標

・単一素材からなるフィルム容器包装を開発する
・100%再生可能、再利用可能な容器包装にする
・再生プラスチック使用量を5倍にする
・植物由来プラスチック使用量を3倍にする

中長期目標を達成することにより期待できること

コスト低減あるいは収益拡大

革新的なプラスチック包装容器が社内外に展開されプラスチック使用量削減目標が達成されると、新規市場での売上増やパテントアウトによる収入による利益増が期待できます。再生樹脂や再生可能樹脂使用量を増加することにより、バージン樹脂使用に伴う新規課税を回避する効果もあります。

社会に及ぼす効果

これら目標を達成することで、新規資源投入量の削減をはじめとする循環型社会の形成に大きく貢献でき、将来の資源制約社会においても生活者に清潔製品をお届けすることが可能となります。

2018年の実績

実績

2018年10月、花王はプラスチック包装容器に関する考え方「私たちのプラスチック包装容器宣言」を公開しました。

2018年11月、技術イノベーション説明会にて、「パッケージ リサイクリエーション」と称し、海洋プラスチックごみゼロ、再生プラスチック100%活用、残液ゼロをめざすAFB(エアインフィルムボトル)の開発情報を発信しました。

2018年に新たに製品に導入された4R活動は次の通りです。

Reduce(減らす)

・「カネボウ化粧品のスキンケア製品」の輸送用打箱の包装仕様を見直すことで、打箱レス化を27製品に対して実施
・「メリット」、「エッセンシャル」、「ビオレu」の大容量つめかえパウチのフィルム構成を、アルミ箔仕様から蒸着PET仕様に変更するとともに、4層から3層に簡素化。プラスチック使用量とCO_2排出量をそれぞれ、7%、25%削減
・「アジエンス うる艶浸透ケアオイル」のディスペンサーをヒンジキャップに変更。プラスチック使用量とCO_2排出量をそれぞれ、8%、6%削減

Replace(置き換える)

・既存の取り組みを継続、2018年新規取り組みなし

Reuse(再利用する)

・「キュキュットCLEAR泡スプレー」に約3回分のつめかえパウチを採用しプラスチック使用量を66%削減
・「スマートホルダー」の大手流通での販売を開始

Recycle(リサイクルする)

・既存の取り組みを継続、2018年新規取り組みなし

実績に対する考察

「私たちのプラスチック包装容器宣言」を公開したことについて、ビジネスパートナーを含む社外ステークホルダーから、多くの肯定的コメントをいただきました。一方、具体的な今後の活動や目標の早期公開を求める声もいただいています。

「パッケージ リサイクリエーション」については、画期的な取り組みとの評価とともに、協働提案もいただいています。これら社会からの要請を真摯に受け止め、積極的に本活動を推進していきます。

従来から実施している4R活動は、日本においてはほぼ一巡している感があることから、2018年の実施状況は比較的乏しいものとなりました。現在、プラスチック包装容器についての社会からの要求は欧州を中心に高まっているため、今後は欧州をはじめ日本以外での活動も強化していきます。

具体的な取り組み

Reduce：容器包装材料の削減

花王はボトルの薄肉化や、製品の濃縮によるコンパクト化などによる容器包装材料の使用料削減を進めています。容器包装の材料削減は環境負荷低減と同時にコスト削減にもつながります。

花王は、消費者に届く包装容器のみならず、流通段階で使用する段ボールや打箱についても、削減活動を継続的に行なっています。

つめかえパックの内容量を変更せずに高さを低くすることで、トラック輸送時の積載効率を向上させるというアプローチは、製品ライフサイクル全体を通じた環境負荷低減活動を行なっている花王ならではの活動との評価を受けています。

改良前　改良後

つめかえパックの高さを低くすること等で、パレット積載効率が50%改善

小容量製品を中心に採用が拡大している脱ブリスターパックを実現したシュリンクフィルムを利用した包装は、日本において一般化しつつあります。

一般化しつつあるシュリンクフィルムを利用した包装

2018年の環境負荷低減につながった容器包装材料のコスト削減事例は45件あり、CO_2排出削減量とコスト削減量はそれぞれ年間で約1,184トン、約1.7億円となっています。

2018年は、東京都市大学環境学部 伊坪徳宏教授の協力のもと、LIME2手法を用いて、つめかえ容器が普及している日本の社会の環境影響評価を実施しました。その結果、つめかえ容器が普及した社会は本品ボトルをリサイクルする社会と比べ環境影響が低いことを確認しました。

Replace：再生可能原料への転換

将来、化石由来プラスチックの利用が制限される可能性が高いことから、植物由来プラスチックを容器やフィルムに利用する技術開発を積極的に進め、2012年に初めて実装して以来、その利用品目と利用量は拡大し続けています。

植物由来ポリエチレンを採用した製品群

容器包装 301-2

具体的な取り組み

Reuse：つめかえ・つけかえ製品の推進

花王が最初のつめかえ用製品を発売したのは1991年ですが、その品数は年々増え、2018年12月時点のつめかえ・つけかえ製品は295品目に上っています（花王（株）実績）。日本において一般的となっているフィルム製つめかえ容器は、使用するプラスチック量がボトルに比べ大幅に削減できる（シャンプーの場合79%）こともあり、アジアを中心に拡大を続けています。

さらに花王は、消費者がつめかえやすいように、ボトルの大きさや内容物の粘度などに合わせたさまざまな改良を加え続けています。

つめかえ用製品の販売数量比率は1997年から急速に増え、現在ではほぼ80%強で推移しています（本数ベース）。たとえば柔軟仕上げ剤や衣料用漂白剤のつめかえ用の比率は90%以上で推移しています。つめかえ・つけかえ用製品によるプラスチック削減量は59.5千トン。製品のコンパクト化による効果を加味すると、プラスチック削減量は93.1千トンに上ります（全品が本品容器である場合との比較。花王（株）2018年実績）。

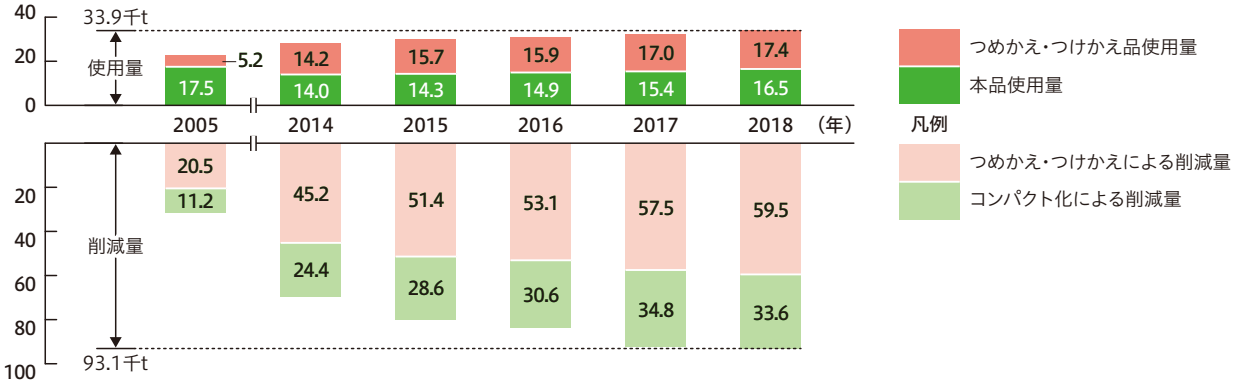
花王は、つめかえやすい「ラクラクecoパック」を「つけかえ」することで、最後までムダなく使える環境対応と簡単な操作でのユーザビリティをさらに向上させた専用ホルダー「スマートホルダー」を提案。これにより、プラスチック製の本品ボトルが不要になります。また、スマートホルダーのラベルデザインを自由に選択することで、個々人のライフスタイルに合わせることもできます。

本技術は、第57回ジャパン パッケージング コンペティション最高賞の「経済産業大臣賞」、2018年グッドデザイン賞を受賞しています。

スマートホルダーの普及と環境意識の啓発のため、さまざまなイベントを企画しています。2018年は、札幌市が開催した「環境広場さっぽろ2018」において、世界に一つのマイホルダーを作成するイベントを企画しました（実施：花王グループカスタマーマーケティング（株））。

「環境広場さっぽろ2018」花王ブース

容器包装材料使用量の推移



※ 集計範囲：花王（株）
※ ボディ用洗浄剤、手洗い用洗浄剤、シャンプー・リンス、洗たく用液体洗剤、柔軟仕上げ剤、台所用洗剤、住居用洗剤、漂白剤、かびとり剤

容器包装 301-3 具体的な取り組み

Recycle：再生材料の利用

花王は再生紙や再生樹脂等の再生材料を積極的に導入・活用しています。1960年代から粉末タイプの洗たく用洗剤をはじめとした、多くの製品の紙箱や説明書に再生紙を使い続けています。

台湾における「花王シャンプー」「花王ボディウォッシュ」の容器は、2016年から100%再生樹脂を使用しています。

「クイックルワイパー ウエットシート」の袋には再生樹脂を80%配合しています。

リサイクリエーション活動

花王は、容器包装の新しい資源循環に向けた研究に取り組み、2015年から「リサイクリエーション」という新しい考え方を提案し、地域の皆さまといっしょにその可能性や価値の検証を始めています。実証実験では、地域の皆さまから洗剤やシャンプーなどの使用済みのフィルム製つめかえ容器を回収し、パートナー企業と協働して再生樹脂に加工。地域の新しいまちづくりや暮らしづくりに役立てていただく活動を進めています。

再生樹脂からは、さまざまなモノ・価値をつくるという「クリエーション」を象徴する「ブロック」をつくりました。

このように、使い終えたものに、技術やさまざまな人の知恵・アイデアを加え、新たな価値を生み出す活動が「リサイクリエーション」です。

➡リサイクリエーション Facebook
www.facebook.com/RecyCreation.jp/

リサイクリエーション活動のイメージ

鎌倉リサイクリエーションプロジェクト

容器包装技術の紹介と意見交換

2018年は、以下のプロジェクトにおいて花王の容器包装技術の紹介と意見交換を実施しました。

・日本国環境省とフィンランド・イノベーション基金（Sitra）の共同で開催した「世界循環経済フォーラム2018」において、花王が取り組んできたつめかえ容器によるプラスチック削減活動とリサイクリエーション活動を紹介

世界循環経済フォーラム2018

・環境省が進める「プラスチック・スマート」に花王の取り組み事例を提供

➡プラスチック・スマート
plastics-smart.env.go.jp/

・日本国政府が「プラスチック資源循環戦略」を策定するプロセスにおいて、花王が進めているフィルム製つめかえ容器によるプラスチック総使用量削減活動等をプレゼン。同戦略における削減目標につながる技術などを紹介
・一般社団法人日本経済団体連合会が取りまとめた「SDGsに資するプラスチック関連取組事例集」に花王の事例を提供